

# 村 上 の 家



キッチンとダイニングが一体となった檜のテーブルが家の中心



リビングから薪ストーブと土間を望む



デッキを介して裏山とつながる和室



杉と桧を使った脱衣室と浴室

子ども室にもふんだんに杉を使用

## 【 建 主 参 加 型 の 家 づ く り 】

地産地消の家づくりと地域林業に興味を持っていただきたい、ずっと愛着を持って大切に住んでいただきたいという想いから、建主さまには家づくりに積極的に参加いただきました。越後杉の伐り出しをはじめ、焼杉づくりや漆喰塗り体験、現場での打ち合わせを重ねることで「建主参加型」の家づくりとなり、これが「村上の家」の個性を生み出しました。



山北杉の伐採に立ち合い。伐り出した木は子ども部屋の間に立つ7寸角の柱になり、これから思い出が刻まれていきます。



ご家族が見守る中、めでたく上棟を迎えました。構造材には地元村上で育った越後杉を使用しています。



村上の「黒塀」をイメージしながら、バーナーを使って焼杉づくりを行いました。小さなお子さんも一生懸命頑張りました。



壁の漆喰塗を家族で体験。初めての体験でしたが、最後は職人さんから褒められるくらいの腕前になりました。

## 檜のテーブルが家の中心。 里山の大きな暮らし。

村上瀬波温泉ICからほど近く、幹線道路から一本入った、里山に囲まれた自然豊かなところに「村上の家」はある。

敷地南側には圧迫感のあるコンクリート擁壁、2階建てアパートが建っている。満足の眺望とプライバシーを確保するために、東側と西側に小高い山がある敷地の特徴から、あえて南側ではなく東側の裏山に向かって大きな開口部をつくり、室内と裏山がつながるコンセプトとした。外観を構成する外壁や外構には、村上の「黒塀」を意識した焼杉を使うことで、地域性があり、風景に溶け込むような建築を目指した。

中央にある3メートルを超える檜のテーブルは、料理や食事はもちろん、子どもの勉強や遊び、お茶を飲んだりくつろいだりと、使い方に制限されない家族の居場所となった。このテーブルを中心に、和室、土間、水廻りと空間がつながり、どこにいても家族の気配が感じられる間取りになっている。

夏には大きな開口部から裏山の緑を室内に取り入れ、また冬は薪ストーブの灯を眺めて過ごす日常が展開されていく。シンプルではあるが、「村上の家」での暮らしには、ゆったりとした豊かな時間が流れている。



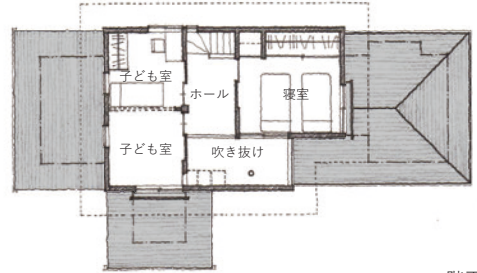
板塀は黒塀とし、前庭は新潟の雑木と三川石を使用



広いキッチンで家族みんなでお料理



キッチンに立っても視線が合うことで、自然にコミュニケーションが生まれます



二階平面図

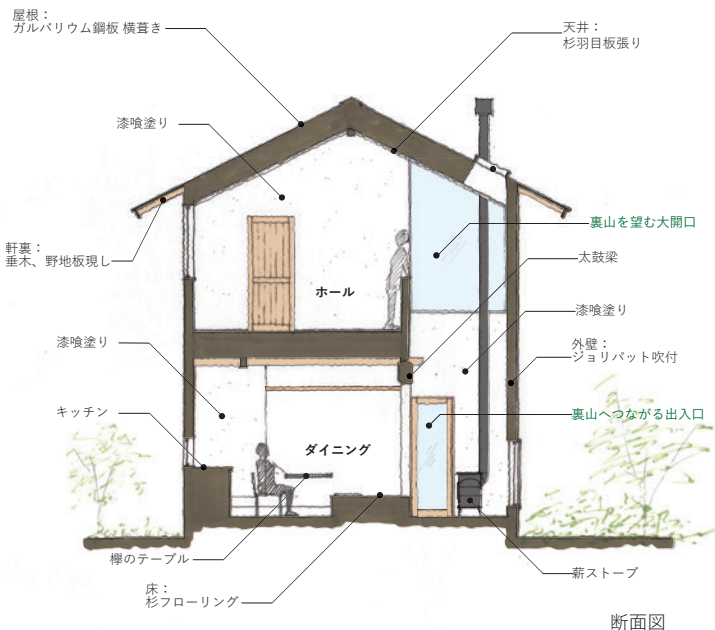


配置図兼一階平面図



scale=non scale

南側立面図



断面図

所在地：新潟県村上市 家族構成：夫婦＋子ども2人  
敷地面積：220.01㎡  
延床面積：92.72㎡（1階57.95㎡ 2階34.77㎡）／28.04坪  
設計：伊藤誠康／アトリエI's 一級建築士事務所  
竹村泰彦／ノモトホームズ（株）野本建設  
施工：ノモトホームズ（株）野本建設  
構造軸組工法  
主な外部仕上げ：屋根＝ガルバリウム鋼板横葺き 軒天井＝垂木、野地板現し  
外壁＝ジョリパット吹付、焼杉板張り  
主な内部仕上げ：天井＝石膏ボード厚下地 漆喰塗り、杉板厚12mm張り  
壁＝石膏ボード厚下地 漆喰塗り、杉板厚12mm張り  
床＝杉無垢板厚30mm 素地仕上げ、玄関・土間は洗い出し仕上げ